

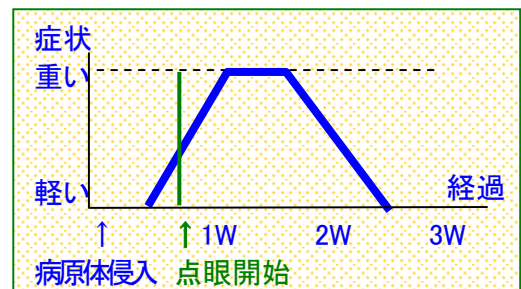
流行性角結膜炎(EKC)について

1. EKC とは？……白眼(結膜)の炎症を結膜炎といいます。スギ花粉症のように非伝染性のものと、他人にうつる伝染性のものに分けることができます。EKC は伝染性で、アデノウイルスが原因です。単に結膜の炎症だけでなく、角膜にも異常を生じることがあります。

2. 診断、経過と治療……

診断には、結膜をこすって病原菌を調べる**簡易検査**を行います。(中には検査が陰性の場合もあります)

経過は、分かりやすく図式にすると右の通りです。病原体が眼に入ってからすぐには発病せず(潜伏期)、7～10日後に発病し、充血、メヤニ、異物感、涙などの症状が出てきます。



現在、原因ウイルスを直接退治できる点眼薬はありません。細菌による二次感染を予防したり、後遺症の原因になる強い炎症を抑えるための治療を行います。そのため発症後しばらくは症状が悪化することが多く、**点眼をしているのに悪くなることがあります、心配ありません**。体の抵抗力(免疫)が上昇してくると、この免疫がウイルスを退治するようになり、症状が横ばいになります。その後、ウイルスが減ってくるにしたがって徐々に症状が軽くなります。ウイルスの強さやその方の抵抗力にもよりますが、発病してから**治るまでに10日～3週間かかることが一般的です**。

発病後に角膜にびらん(黒眼の傷)ができたり、角膜混濁(黒眼の濁り)が生じると、視力が低下することがあります。

3. 注意していただきたいこと

- (1) 感染力が非常に強いため、発病している人が自分の目を触り、涙などが付いた手指でどこかを触り、そこを触った人が自分の目を触るだけでうつってしまいます。なるべく目を触らないように心掛け、触ってしまったら**石鹸で手をよく洗い、流水で十分に洗い流してください**。周りの人にうつさないようにすることが大切です。
- (2) 義務教育では、集団感染を予防するために**学校を休まなくてはなりません**。働いている方は休まなくてはいけない決まりはありませんが、多くの人と接する職場などでは感染予防のため休むことをお勧めします。必要であれば「自宅療養を要す」診断書を書きます。
- (3) 家族内での感染も多く起こります。洗顔、手拭きの**タオルは別にする**、入浴は最後にする、などして、家族にうつさないように気を付けてください。

★ 即効性のある治療法がないため、なかなか治らずに心配される方もいらっしゃいますが、心配せずにきちんと点眼し、周りの人にうつさないように注意して生活してください。